WASON
HQ
1104
J24+

July 7
1888
no. 117

廿一年七月（版權所有）七日發兌

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢 府内無稅 郵稅一錢 毎土曜出版

第百拾七號

社說
男女交際は女權を伸張す

論說
婦人の社交上に於ける勢力（德富猪一郎）○日本現今之婦人（伊勢時雄）

批評
讀賣新聞美人の好み○女學、奬勵、改頁

叢話
米國女況通信（島田三郎）○洋裝をなさんとする日本貴婦人に告ぐ○空氣の說（長與專齋）○百人一首一口話（鈴木弘恭）

小說
さすがに雙紙（美妙齋主人）○小說神髓

佳傳
メレーライヲン女史

小供談

新報
女の無學古今の比較○束髮の盛衰其他

外報
皇后陛下洋行の風聞
英國に起る外數件

詳和世中川昇刻　專賣二〇三一一、一五

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 117. JULY 7TH, 1888.

EDITORIAL:— On Social Intercourse: No. V., Social Intercourse improves the Woman's Right.

LEADING ARTICLES:— Influence of Women in Society (II), by Mr. I. Tokutomi; Women of the Present Age (III), by Rev. Mr. T. Ise.

CRITICAL NOTES:— "Yomiuri-Shinbun" on Womanly Beuty; "Jogaku" and other New Words, in regard to the Woman's Question.

MISCELLANIES:— Letter from Mr. S. Shimada in America; "To Japanese Women who are Adopting Foreign Dress, by H. Frances Parmelee" Translated; Air, by Mr. S. Choyo; Short Conversation on the Hundred Odes by a Hundred Poets (X.).

NOVELS:— "Sasugani" (II).; Bouquet of Novels.

BIOGRAPHIES:— Mary Lyon (III).

CHILDREN'S COLUMN.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

一冊枚數七十葉二十錢全國無郵税半年前金一圓一年前金二圓也

左の第十卷此度發兌せり以後毎月切度十五日發兌

通信女學第十卷發兌

此度の號より大ひに改良を加へたる所ろあり諒焉

今度所々の婦人會の教科書に用ひられたり御旋く購讀を乞ふ

女學雜誌社

○珊瑚の珠

○ヒウルミレル曰く世界は一の大學校なり困苦は即ち眞師友なり。

○スカット曰く金錢は人の靈魂を殺ろし白刄は人の內躰を殺ろす二者を較ぶれば金錢の人を殺す多きに若かず。

○レイノルド曰く能く談ずるものは種を蒔き靜かに默するものは果實を收さむ。

○シスロ曰く多くの事業を成就するの捷法は他なし即時に一事を爲すなり。

○淮南子曰く至味は慊ならず至言は文ならず至樂は笑はず至音は叫ばず。

○管子曰く一年の計は穀を樹るに如くは莫く十年の計は木を樹るに如くは莫く終身の計は人を樹るに如くは莫し。

○耶律楚材曰く一利を興すは一害を除くに若かず一事を生ずるは一事を減ずるに若かず。

○馬琴續ひて曰く其の煩惱の根だやしせんとて八万四千の法門を設けて折伏對治ありしかれども三千世界一度には手がまはり玉はて煩惱鄉を漏されたりこの煩惱の根を斷には般若波羅密にしくはなし

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百拾七號　明治二十一年七月七日發兌

社説

○男女交際論（第五）

其効益

男女交際に以上三つの効益あり、而して其最后に數ふべきは即はち女子の權力之によつて大に伸張せらるべしとの事是れなり。吾人は從來之が効益を順々に說き下し、先づ其の人間としての効益を論じ、次に其の男女雙方の關係に於ける効益を論じ、而してのち婦人一個の上に存するの効益を論ぜんとするの折柄、民友記者は慧眼にも其先を越して、過日すでに、「社交上に於ける婦人の勢力」と題する一篇を草しぬ、吾人は其腰を折られたるを殘念に思ひ乍ら、又同記者の才筆によつて此の眞理を明白にしたるを喜こび、玆に至つては、只未だ同記者が注意せざりし一點を擧げて、以て男女交際が婦人一個の上に及ぼすの効益を敘し畢るに滿足せん。故に云く、

（四）、「男女交際は女權を伸張す」と云ふ事。

蓋し交際の上よりして得べしと云ふ婦人の勢力は、啻に斯の如くして女性固有の溶和力を揮りまわし得るとの爲のみにはあらず、實に斯の如くして初めて女性本然の品格を明らかに現はし、以て其の人間としての才力決して男子に劣るとなきを證し得るが故なり。

抑も男女は素と一躰なりしや否や、其進化論たとひ破るゝも立つも、吾人は固より之を擇はず、但現に今日男子と婦人との性質の相違するは實に莫大なるを知る、思ふに男子には迚も女の方々が得て想像す可らざる程の覺悟あれば、亦た女性には男子が決して想像し得可らざる程の感覺あり、故に男子が男に對するの考にて女を持成さば乍ちまちにして大亂を生ず、女子が女に對するの考にて男を持成さば亦乍まちにして卑しまるべし、彼と此れとは到底相混ずべからざるの大相違あつて、而して此の大相違あるが故に男女ともにそれ〴〵の美質を固有するものなり」。然るに雙方に此の美質あるとは、雙方互ひに交際して互に好く相ひ知りたるの上にあらずんば明白ならず、若し夫れ一旦此の美質あるとの明白となりては、最早や男子は女性と離るゝあたはず、女性亦決して男子と離るゝ能はず、必らずや雙方相ひ待つて以て相ひ助けざる可らずとの感じを起すとならん。凡そ交際は各其の尤も價ある所有品を出して互ひに交換するものなれば、或る限りを立越ざ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るの交際は、人間其美質を展覽して以て互ひに相喜ばしむるものなり。左れば茲に男女の交際行れてのち、初めて男子は女の美質を知り、初めて女は男子の美質を承知し、茲に至つて初めて、男女ともに相ひ敬するの心を生じ、相ひ待するの法方を悟り、相ひ評するの標準を學び、以て彼我相ひ侵さずして然も相ひ依るの樂しみを收むるに至らん。

元來人を知るは中々に六かしきものとは申せ、異性の人相知るが如きは、其中にも分きて尤も六かしきものなり、蓋し大抵の人は、己の心を推して人の心を忖り度るなれ、苟くも己れの心を推て、彼を測量することあたはざるに至れば、最早之を評するの根抵を失なつて只だ無我無中の當推量を爲すの外か致し方ある可らず、此に至つて人を知るの明あるや無きやとは殆んど問題の外あり、只だもし馬を呼んで鹿と爲さずんば既に非常の大幸とこそ言ふべけれ。然らば彼の男子が婦人を評するが如き、もし幸ひにして大ゐ誤らずんば、これ實に望外の大幸と云ふべきならん」。蓋し彼れ未だ婦人と交際したることなし、故に婦人の美質を承知したることなし、啻承知せざる耳ならず男子と相違したる一種の美質あらんとの事を嘗て心に思ひ當りしことだもあかるべし。左れば己れの心を推して婦人の心を測り見るに、彼れは己れほどに大膽ならず、彼れは己れほどに企業心なし、彼れは己れほどに磊落ならず、彼れは己れ程に大きな事に注意せざるを見る。斯の如く觀察して則ち輕々、女子は小人に近しと一斷評し、最早や之を一種の劣等人間なりと見下げたるは、滔々たる是迄の日本男子の常習なりき」。此時もし男女の交際自由に行はれたらんには、婦人はよし大膽ならざるとも其代りには忍耐なりとの事が分りしならん、よし企業心に乏しきとも其代りには着實なりとの事が分りしならん、よし磊落ならざるとも其代りには綿密なりとの事が分りしならん、よしたとひ大きな事に注意せざるとも其代りには人の面倒とする所の些事にも頓着して以て能く安んずる高尙の念ある事が分りしならん」。但だ夫れ自由の交際なかりしが故に、此等固有の美質男子の眼中に入らず、たとひ其一部分は其眼中に入りたりとも以て之を尊しとするの經驗を生ずるに至らず、遂に女子は己れと同等に立つべきものにあらずと迄でに見下げらるゝに至りたり。

但し或る人の考には、是迄とても男女決して相見ることを得ざりしにはあらず、子か母に於ける、夫が妻に於ける、兄弟が姉妹に於ける、固より互ひに相見るの方便綽々として足りた

り、男子が女性の美質を評するの手段皆無之れあらざりしにはあらずと申されん。之れ一應は然るべしと云へども、而も吾人の考ふる所によれば、從來男子が女性を見るの方便只だ之れのみにてありしが故に、いよ／＼以て女權を卑うするの途に傾きたりとは存ず。凡そ交際とは同等の氣を含むものなり、苟くも同等の感覺なき交際は之れ名のみの附合にして決して交際にあらず、例へば長官がお給仕と交はり、殿樣が臣下と交はる如きは、例令ひ如何ほどに優しく申し合ふとも、一方は目上に平服してたゞはい／＼と屈服するのみ、一方は多少尊大に構へて他を憫れみ之を慈しむものなり。此に於ては、長官や殿樣は一方の溫順なるを知り、お給仕や臣下は一方の威光あるを知り、彼は見下げ、此は見上げ、此は買かぶり、彼は買下ろし、迚も双方の美質を有のまゝに現はして有のまゝに之を承知し以て有のまゝに同等の交際を致すことを得ず。日本從來の夫妻は即ち之なり、安んぞ相ひ正當に其美質を承知することを得んや、殿樣は傲然たり、奧樣は小さくなる、小さくなるものは彌よ小さくされ、傲然たるものはいよ／＼尊とまる、此に於て男權ます／＼長じて女權いよ／＼落るものなり。夫れ夫妻すでに斯の如し、婦人劣等の感覺此の中心より發起して段々に擴ろがり、遂に婦人は迚も賴みに成らぬるもの、感服するに足りぬものと思ふが故に、彼の兄弟も姉妹を輕んじて之を別格に取扱ふに至り、甚しきは子が其母に於ける迄も、既に長じてよりは頓と母の小言を耳にもかけざるの形勢とは成りぬ。

之を以て吾人は固く信ず、男女の交際は女權を伸張する大屈强の良方便なり。吾人は政治家風の見識を以て之を言ふにあらず、哲學者風の見識を以て之を言ふ也。社交上のアヤツリを以て之を希ふにあらず、人情の至當に訴へて之を言ふ也。即ち啻に民友記者的の眼を以てのみ之を言ふにあらずして、實に着實質朴の眼を以て之を見たるものなり。盖し男女の交際自由に行るれば、男女の美質いよ／＼明白となるべし、男女の美質いよ／＼明白となれば、男女相ひ倚り相ひ敬するの習慣いよ／＼熟すべし、男女もしいよ／＼相ひ倚り相敬するに至らば、則ち男女すでに同等と爲れるもの也、男女もしすでに同等とならば、之れ既に今日の婦人が其女權を伸張し得たるの幸福にはあらずや。

吾人嘗て春水の小說を讀んで、日本婦人の爲に慷歎したり。盖し昔は日本に自由ある男女の交際なかりき、只だ其の之れ

あるは、之を藝妓娼妓の仲間に於て求むるに在りき、蓋し藝妓娼妓の外か、日本男子が自由氣儘に近づき得たる所ろの婦女あらざりしが故なり。左れば女性の人情を尤も隱微に穿たんと欲して、而して此の人情を何の人に於て研窮し得べきかと云はゞ、只だ是れ彼の自由氣儘に近づき得べき所の藝妓娼妓に於て之を求るの外なかるべきなり、春水小説中の女性が悉く此流下等の人物たる、亦た止むを得ざるものなり。」

嗚呼、もし藝妓娼妓に據つて女の性質を知り、或ハ萬事只だ己れに屈服する所の細君に據つて之を學び、女性の才は只だ之れのみとせば、何の日にか婦人本然の美質の悉く明らかに承知さるゝを得ん、而して其の美質の承知せられざるの間は、即ハち是れ男女同等ならざるの間だなり、女權果して何の日にか之を伸張するを得んや。昔し、齊の無鹽君は售れざるの醜婦ありき、而かも宣王に見えたるが故に遂に王后と爲れり。昭君は三千宮中の美玉ありしが、楚王に見えざりしが故に、遂に胡に遺てられたり。如何に昭君の美容を其心中に存するものと雖ども、若し出でゝ交際するとなくんば、誰れか其美質を知らんや、男女交際女權を擴張すとは即ハち此の謂ひ也。

論説

○婦人の社交上に於ける勢力（其二）

徳富猪一郎　演説　　佃與二郎　筆記

ソレデ舊幕時代の頃には、總て政治上の權力と云ふものハ、何處にあつたかと云へば、多くは女中の手にあつたのである。其故は、凡て反對のとを云ふ樣だが、決して然うでない、例へば舊幕の時に於て、松平越中守樣と云へば、ナカ〳〵名高い宰相であつて、政治上に於て折角エライ事をなすッたけれども、仕遂げずに位を下りなければならなくなつたのは、全く徳川の奧女中の機嫌にさからつたからであります。又阿部伊勢守樣と云ッて、御一新前に、外患內憂一時に來るの場合に、能く〳〵困難であつたのを、一日一日と凌いだのは、何ふ云ふ譯と云へば、奧女中の御機嫌に適ッたからであります。一躰御婦人の權力の增したとか減ッたとか云ふ、其議論は二番として、兎に角政治上や何やで婦人が政權を握ッたのは、舊幕の時代封建の時代である。今日になつて、追々、御婦人方の權力が進んだのである。デ其證據を擧れば、モウ證據ばかりである、例へば、徳川氏の始めに板倉周防守が、公けのことを家に歸つて、家内に相談の上御挨拶を申上ると云ふた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は、日本外史にも出て居るが、周防の守が家內に相談しやうと云ふも、別に狂言をしたのではない。實に奥樣と云ふものは、內所で內端で勢力が多くして、成程玄關の方から見れば、殿樣の勢力は多いが、勝手の方から見る時は、奥樣の勢力が强かつたに相違ない。大手の勢力は殿樣、搦手は奥樣の勢力である。

モウ此話しは止にしまして、全くソンナ譯である、夫れで何う世の中が替ッて、黒くならうが白くならうが、倒にならうが轉かへらうが、御婦人方を社會の外に推出すとは出きない、又御婦人方を取ッて除けるとも出きない。社會を組織する上に於ては、先づ婦人と云ふものは、立役に使うか、馬の足に使うか暴叛人に使うか分らんが、御婦人方は社會を立る一ツの要素となつて居ります。只日本に於ては、人の眼にたつ所、孰でも氣の注く所では、兎に角婦人の頭を押へ、座ッたがイヽ、默たがイヽ、動かないがイヽ、兎角外に出ないが宜い、兎角社會上に力を出さぬが宜いと、壓制したのであります。其結果と云ふものは、今云ふた御殿騷動などゝあつた。若し御殿騷動でもして、人を毒害する樣なれ方が、今日の如き世の中に生れたならば、矯風會などに出て隨分滔々と矯風のとでも遣たか知れない。けれどもが、然う云ふ力量のあるものをおしつけて、一切力量を出させないとしましたから、夫を持て居るものは夫に向て力を逞ふし、夫のなきものは外に向て力を振はんとし、最う仕樣が無いから、毒害でもしやうと云ふとが起るとと思ひます。其中には根性の惡るい人もある、先づ岩藤などゝ云ふ根性の惡るい人も、於初などゝ云ふ根性の善い人もある。總て此の如きの變りはあるが、兎に角外に向て伸すことが出きないから、內に貯はへるとよなるのである。

ソレデ日本の御婦人は、(爰に御列席になつた方ではない、外の御婦人方を指すのだから、其お積りでお聞を願ひます)一躰日本の婦人は日影臭いのである、ドウモ大陽の光線を吸はない樣な形ちがあるのです。顏の色はお白いかお黒いか、トント私等には分りませんが、一躰精神的の容態を申上れば、眞に幽靈然たる所が私はあらうと思ひます。(爰にお出で遊ばして居るお方ではないが)、何故然う幽靈然となるかと云ふよ、社會の上から頭をおされない、千疊敷にお居で遊ばすも、コンナ事をすると云ふ氣性はなし、精神はあし、仕事は無し、只四疊半の內で、壁に向て何うしやうか斯うしやうか

と、色々愚痴をこぼして以て功名として居るヿと思ひます。」

此樣に論じ來れば復一歩を進めて、西洋の御婦人と日本の御婦人との、差は何處にあるかと云ふに、是れはモウ別に申すまでも無いヿである。日本の御婦人は社交上に於て勢力無く、西洋の婦人は社交上に於て勢力がある、此事は最早私ハ委しく言はない。西洋の婦人の社交上に勢力あるヿハ申しますまい。此事に就てハ、若しアナタ方が女學校の先生にでも、御聞になれば分る。ソレから能くは覺へて居らぬが、此間田村君が御歸國後、能く御話しになつたヿと思ひます、實際私は見ないヿでありますから、田村さんの此間の演說に讓りませう。併しザット云へば、西洋婦人は社交上に勢力があると云ふて宜しい。

是れより議論に進んで、西洋の御婦人は世の中に出て勢力がある、縱令へば演說をするにも「レヂー、ゼントルメン」貴女紳士と云ひます。第二に紳士で、斯く貴女の勢力あるハ、恰も昔しの御公卿樣の樣に、前關白太政大臣正一位とか、左大臣とか右大臣とか云て何の力量もなく譯もなく又力もなく、只位ばかり正一位で崇め奉つて置くのだか、西洋の御婦人方も、昔しの京都の御公卿の樣に、只崇め奉るのみか、抑々亦實際の力量があつて、ソレ程に御威張りなさるか、御威張りなさるゝと云ふ言葉が惡るいなればソレ程までに好き地位に御立ちなさるか、私の見る所を以てすれば、決して西洋の御婦人貴女方の贔負をするのではないが、京都の公卿とは全く違うであらうと思ひます。西洋の「レヂー」が、始終社會に立ッて、肩で風を切る樣な勢で歩行くのは、有躰に云へば、ソレ程の實力があり、ソレ程の効能があるからと、私は考ます。ヂ固より其政治上に立つ「レヂー」が、「ボール」に行き舞踏を爲し、「レセプション」を爲して、人を接待し又話を爲さる、尤も其話したる「ノンセンス」所謂タワイモ無きヿである。其御話しを此樣に速記者にでも速記せしめたならば、ナカ〳〵理窟の詰る樣なヿハない。理窟の積まぬヿをお話なさる樣だが、(私は實際其樣な御話を聞たのではない、勿論小說などで讀んだのだから少しは間違いがあるかも知れない)、併し其御饒舌りなさるヿハ、決して「ノンセンス」ばかりでない、成るほど、今日は何うであるとか、アノ事ハ何うであるとか、我より之を聞けば、タワイも無きヿの樣であるが、其お話しなさるヿハ、側に居る、近邊に居る、あたりに居る男子を、魔醉劑の樣に「メスメリズム」の樣に、魔醉せしむる所の

力がある。併し西洋の婦人と雖も、魔法を使ふのではない、皆「ノアトン」の御婦人の様に、「メスメリズム」が御上手なのではない、西洋の婦人の内から發射する所の、智識上の空氣と云ふものがあるからであります、唯り智識上の空氣ばかりでは無い、兎に角精神上の空氣と云ふものである。（未完）

○日本現今之婦人（其三）　伊勢時雄述　佃與二郎筆記

如何にすれば價値がつきますか如何にすれば鐵を刀となすことが出來ますか只之を鍛ふのです鍛へば如何なる鐵でも刀に變じないことはありません若しも之れに反して之を鍛へずに只だ鎔して型に入れて居つたならば其質はよくならず却つてわるくなつてチヨイト叩いても毀れると云ふに至るかも知れない此の如く今日皆さまの身を處したまふの仕方次第では價値も上がらずに却へつて下がることがあるかも知れない依て私は三ツのことを姉妹方にお勸め申したいと思ひます。

第一に學問をお勸め申したい智識を得ることをお勸め申したい私の聞て恐るゝ所によれば今の女子敎育と云へば學校に入て身に智識を得るものならすして恰も醜顔に白粉をぬる様なわけで外國語で少しの話しでも出きる様に一寸としたる手紙でも書ける様に卒業證書でも貰へる様にと只表面の價値を作ることを求めらるゝ人がありはしないかと思ひます我心に智識を増して幾年たつても忘れない様にとの覺悟のある人は少ないかと思ひます若し姉妹方が面白いから學ぶ交際上に都合がよいから學問すると云ふなれば何時迄たつても男子に追つくことは無いと思ひます或は穢ない着物でも或はからだが汚れても變人と云われても差支ない智識を得ると云ふの御覺悟がなければなりますまい學問は飾りではない卒業證書を貰うためではない智識上に價値をつけ實力を作るのが必要なので御座いませう學校で此れ〳〵の本を讀んだと云だけでなく試驗がよろしいと云ふだけでなく其心が鐵を鍛へた様に錬磨して來るから外の事業を執にも確然其見込が定まり考が細密となり書を讀んでもよく其適用が出きると云ふ様になることが必要であらうと思ひます。

第二には私は基督敎を御信仰なさいとお勸め申します何故に基督敎を勸むるかなれば世界の中で「イエスキリスト」の敎によらなくて我姉妹の心に眞理と云ふことと義務と云ふことと潔白と安心と云ふことを與へることが出きないからであります私は私か「すき」だから無闇にキリスト敎を勸むるのではない實にこれは皆さんにとつて缺べからさる必要のものである故です

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此頃女學雜誌などを見れば樂しき家庭（スウイートホーム）と云字が大分に見へますが日本には樂しき家と云ふものが無い如何にして樂しき家を起すとが出きますか若容貌の奇麗なる婦人で顏に化粧して其身に奇麗なる衣服を纏へば樂しき家が出きますか馬に乗り洋服を着れば出きますか又は養生法を知り小供の育て方に注意し家の經濟をまとめて行くとが出きれば樂しき家が出きますが又男子が文學者なれば婦人も天文學に達し男子が經濟學者なれば婦人も經濟學に長じて居つたならば樂しき家が出來ませうか願ふに此等のとも必要ではあるが決してソンナことでは樂しき家を作る事は出來ぬと思ひます凡べてこれらのとは要用ではあるが欠くべからざるものでないとの欠くべからざるものは則ち其夫たるものと妻たるもの母たるもの子たるものと皆樂しき性質を持ち樂しき交際の出來るからであります其人々が朝から晩まで共に居つても心に煩ふ樣なとを言はない爲ない思はない夫故に共に居るのが樂しい始終居つても嘘言をつかう諂ひをしやうと云ふ心配がない相信じ相愛して居るから「スウイートホーム」と云ふものが出來ます言を換へて云はゞ清き志操を持て居るから樂しき家が出來ます信實と云ふものがあるから神に對し人に對して義務を盡すから潔白の行ひを爲し心に安心があるから「スウイートホーム」が出來ます智識だの學問だの容貌だのは「スウイートホーム」を爲す就いて丁度數學の零の樣なものです最初に1の字を置けば皆役に立つ1の字に一ッ零を加ふれば十です今一ッ加ふれば百です進んで千となり萬となる、1の字とては何ですか前に述べたる道德上の性質でなければなりませぬ之を約めて言へば眞理と義務と潔白と安心と平和とを以て初めの1の字にしたいと思ひますソレには宗敎を信じなければならぬ宗敎を信ずるとは徒だに聖書を讀むとではない讃美歌を唱ふとではない日曜日に集るとでもないこれらのことは皆必要なれどもこれらではない眞の宗敎なるものは會堂や說敎ではない新たなる人の心です心で神を學び神の心神の性質を學ぶのです斯る宗敎を私は姉妹方にお勸め申すのであります。

是に次で實際の衣食住の上家を齊ふる點に於て或は小供を育つる點に於て實際に學問上の道理を行ふが必要と思ひます一家の經濟を執ても信用を承け小兒を育てゝも信用を受け食物を烹ても信用を承け衣服を拵へても家を治めても信用を承けるとなればあなた方の御身には始めて價値がつきます幾万圓

とて金を以て許價れぬ程の尊敬と信用と云ふ價値が出來ませう古き器物の如く好いた人なれば何千圓も出すが嫌いの人なれば一文も出さないと云ふ樣では實に姉妹方よとつてお氣の毒と思ひます。

或人は問ひませう矯風會なるものは禁酒のとだの煙草をのむを廢するとだの藝娼妓を廢するとだのと云ふとを勸むるものである若し外に出て働かずして内に引込んで居て實力と云ふ時には卑屈に流るゝに相違ないと、私もソウ思ひます卑屈に流れてはならんから禁酒も主張なさるがよろしい禁煙も主張なさるが宜しい廢娼も主張なさるがよろしい出來るだけ遣つて行くがよいと思ひます併し社會に立て爲す所の事業はナカ〳〵大事業で而して困難であるから進めるだけに實力の許す限は進んで事に從ふが宜しいと思ひます路を行と同じく一歩一歩と進むはよろしいが足元を見ずして進む時は時として倒るゝとがあります、私の友人が一日獵に出かけまして一疋の鶫を狙ひました所が其れがピン〳〵飛んで逃るに從がひ之を趁ふて行きまして遂に我知らず不潔なる溝の中に陷ちました是れ足元に氣を附けなかつたからです私は立派なる夫人方お孃さん方がキタナイ溝に倒れ込みなさることのなき樣にと存じます故に禁酒會も禁煙會も凡べて社會に出て男子を教ふるとも宜しいが併し是れは自分の信用の出來た丈になされるがよろしい毎でも我足元に氣を配り力を込めて實力を養ふ樣にするが兩全の策では無いかと思ひます。

御承知の通り西洋の禁酒會は婦人が婦人の爲めに禁酒を唱へるのではありません婦人にして禁酒會に這入らなければならぬと云ふ必要も余りありません日本と同樣で重に害を受るものは男子です故に婦人が出懸けて男子よ說諭し忠告するのです日本の矯風會は女の地位を高める爲めのもので併せて禁酒其の他風俗改良の主義をも持て居る故に禁酒會とは言はずして矯風會と云ふのでありませう私は一日も早く進んで男子を說諭する樣にしなければならぬと思ひます而して其の前にそれが出來る樣には姉妹方の實力を養なふと即はち學問を勵むと宗敎を信ずること及よひ實用に練達するとの三者を爲さなければなるまいと私は考へます若し姉妹方が此の三者を爲さるなれば決して男子が壓制するとは出來ない夫故に我に權利を與へよ信用を與へよ尊敬を與へよと要求するよりも寧ろ世人が信用せねば居られぬ尊敬せねば居られぬ樣に實力をお養なひなさい。(完)

批評

○讀賣新聞の美人の好み

女學雜誌第百十五號に經濟讀賣兩記者の御喧嘩を傍らより一寸つと一言したるに付讀賣記者より大層に叱られたり其の叱り玉ふ言葉に云く、

女學雜誌記者は實に厳格なる言語學者なり否な字引學者なり記者は Taste なる文字を英和字書に嗜好と譯しあるを見て嗜好とは「好み」なり既に「好み」なるからには楚々たる美人を好むも「好み」なれば三平二滿を好むも亦た「好み」なりと推理し扨てこそ余輩の議論を「あまり聞え過ぎて何の理窟もなし」云々と評されしならん一と通りは實に御尤もなりと雖ども惜ひ哉記者は修辭學を參考し給へざるは勿論ウエブストルの大辭書をも參考し給へざると見ゆ謹しんでウエブストルの大辭書をば案ずるに Taste なる文字に記者の所謂「好み」と云ふ意味固より之ありと雖も Critical Juagment（批評的の判斷）といふ意味また有之而して修辭家の所謂る Taste なるもの黒人が Taste と云ふ字を使用する時にはこの第二の意味にて使用するなり即はち Taste があるといへば「好み」があると云ふ意味にはあらず無差別無我無中にあらず何んでも御座れにあらずといふ意味なり斯く說明を爲すに於ては女學雜誌記者其說を抑去せらるゝや如何に而して記者は美術心が Taste なりといふ少し聞こえざるのみか云々と述べたれどもこれまた聞えざる筈はなし Taste は Taste なりと云へば無論聞こゆるに相違なく記者も亦了解さるゝならんかなれども左りとては興薄し凡そ修辭學に於て全般の事を指すに格段の名稱を用ゆるとを許すからには Taste を美術心と稱するも何んの不可かあるべきぞ左りながら記者なほ聞えずといへばりれまでなり余輩は實に美術心を以て Taste を意味せしめたり而してこの Taste 即ち批評的の判斷にして美術を判斷するに當りてはお多福を賞美するとあるべき美人を判斷するに當りては三十二相完備するにあらずんば滿足せざるや明けし。

婉曲巧妙の言ひ廻わし方餘程お骨が折れたりと恐察す然し吾人はテーストを譯して「好み」とは申さず英和字書を見たるとも無ければ謹んでウエブストルの大辭書を之が爲に吟味したるとも無したゝ記者が嗜好心なりと仰せらるゝに付嗜好心とは好む心の義ならんと承知せしゆへあり尤も嗜の一字不足なりとならば幾重にも謝すべし、更らば改めて言はんに宣王が無鹽を愛したる其嗜好心に由ると云ふとを得ば（得ずと云はるゝか）鹽からを甞めたる閻魔豆鐵炮を食ひたる鳩の如き御面相の女を愛する人は（人ありとせば）亦其嗜好心に由るにあらずや而して此の嗜好心を稱して美術心ありと解せらるゝ以上は此の美術心は實に厄介者あらざるを得ず。

因に云ふ「好み」とは無我無中の念にあらず矢張り批評的判斷の力を存す若しお薩を好むに批評的の意なしとせばチヨウセルの詩を嗜好するの趣味心にも亦た批評的の判斷を欠くと云ふべし。

○女學、改良、奨勵

婦人改良婦人奨勵に對する經濟記者、女學に對する經濟輿論の兩記者は、最早や共に吾人の說に滿足したり何となれば兩記者は吾人の詰問に答へざるが故なり。辨慶は安宅の關を經て寧ろ自由と爲る彼の三新語は一たん彼等に許可せられたるが故に反つて無雙の勢力を得たり須らく一層遠慮なく横行すべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

叢話

○米國女況通信（其二）　島田三郎

ウ井ーラルド婦人は米國婦人社會の偉人にして其論文等は屢々宗教文學の書に見へ外國までも名を知らるゝ人なれば其風采は如何なるやと想ひたるに極めて質素なる家に住居し簡易なる衣服を着け風采極めて高くさりとて倨傲の色を見ず辨舌爽かにして人に接する極めて禮あり一見して非常の婦人たるを知れり小生はハリス夫人の紹介狀を出したるに婦人云く卿の米國に來らるゝとは在米の日本友人根本正君より聞きたり予は先日來ニユーヨークに趣きおりしが今年八十四歳の老母大病に罹りたりとの電報を得て兩三日前歸郷せり兎に角晝食を共にして話さんとて是より秘書某孃と三人にて食事を爲し日本の現狀を叩かれたれば小生の所見を陳べ且つ當地大學の參觀を求めしにウ井ーラルド婦人直ちに人を馳せて當地大學の教授ホルスウエル君を呼び案內を托せられ其間又秘書をして自己の書室に導かしめたり全躰の家屋は小と云ふにはあらざれども客室などは至つて質素にて書室は諸國の友人、同志、同主義の人々の寫眞を掲げ通信の書翰机上に滿てり隣房には書記の通信局あり二人の秘書を置き其他門生の如き婦人三名程ありと聞けり。

ウ井ーラルド婦人はウ井スコンシンの生れにて歐洲にも遊學し當地の大學に文學科長の職を奉じ才學氣象共に拔羣にして今は教授の職を解きて文壇に翺翔し社會の弊害を矯正するの業に盡力し尤も婦人の位置を進むるに熱心し且つ禁酒會長に撰まれて此事を擔當し時として新聞雜誌に其論を示し時としては同志と共に山川を跋涉して其主義を擴張するに盡力せらるボストン府出版のアワーデーといへる雜誌はジヨセフ、クツク君の編輯にて社會の弊害を矯正するが爲に設ふけしものあるがウ井ーラルド婦人は其特別寄書家の上首に居れり。

小生ウ井ーラルド婦人の家を辭してホルスウエル教授の案內にて當地の大學を一見せしに此校はミシガン湖の岸に沿ひて設け極めて閑靜の地あり校名を北西大學とて神學、文學、科學其他附屬の校は皆此の閑靜の地に設け法科醫科はシカゴ府內に設ふけあり教員は助教と共に六十名許りなりといふ其中文學科長はマイクリアルス婦人にて其下に男子の教授もあり婦人の教授二人あり小生の參校は午後にてマイクリアルス婦人の教場に至りしに佛國文學史を授け居らる生徒は男子婦人一室にて其座席を別にせり教授の年齡二十六七歲許にて有髯の

男子生徒となりて其下に屈服し敎へを受け居れり諸室を見たる後校長ドクトル、カシング君に面會し此夕晩餐の饗應を受けホルスウエル敎授の宅に一泊し學校の來歷等を聞けり」本校は四十年程前設けし由なるが其後火災とかにて學館の再建に苦しみし時ガレットと云へる婦人其の資金を出して校費を助け且つ今時婦人の敎育方法不完全にして中學を終るものは大學に入らんとするも之を許さゞるを常とするは婦人の一大不幸なれば此大學は平等の權を與へられたしと申し入れ是が爲に今日の基礎を開きしなりと。

ウヰーラルド婦人又其主義に關する雜誌等を一括して贈られたれば幸便に托し御手許へ差上申すべくと存候。

小生サンフランシスコに滯留中其近傍のベルクリー大學へハリス君の案内にて參り候節女學生を多く見受け候に付其事情を承はりし處サンフランシスコ邊は新たに開けたる土地にて業務極めて繁劇なれバ男子十七八に至れバ大抵商業に入るも婦人は却つて文學等に從事して中小學の敎授の位置を得んとするが故に婦人の來校多きなりと申され候。

(中畧)當地に禁酒會の局あり小生ウヰーラルド婦人の紹介にて其局に參り候所同局の出版雜誌と女學雜誌と交換せんと申し候に付き次便よりは同局の雜誌日吉町八番地へ届き可申と存じ候女學雜誌左の所へ御送り奉願候(下畧)

五月十二日　島田三郎

巖本善治愛兄

○洋裝を爲さんとする日本の貴婦人に告ぐ

左の一篇は兼て女學雜誌新報欄内に申し置たる彼の米國上流の貴婦人方が我日本の女流が洋裝を爲さんとするを大層に殘念に思ハれわざ〳〵其宜しからざるの理由を記るして本地に送られ過日橫濱のメール新聞を通して本邦洋服執心の婦女子に訴へられたる英文の反譯なり。

日本國開化の進步は眞に速かにて凡そ西洋の文明とし云へば何事によらず之を取用ひて諸外國と競爭せられんずる今日に當りては右改良の氣運既に女性の方々に達し遂に其の服裝の事に迄で及びたるは當然の事と存じ、倘ほ此際日本の貴婦人が大抵の文明國に於て行ハるゝ女服を取用せられんとするも亦た不思議の事とは存じ申さず、盖し若し此等數多の國民が同一樣の服裝を致すことゝ相成らば其女性全躰が惣じて互ひに姉妹の如く感じ候ハん爲めには是又多少の効能可有之と存候。

然し日本の貴婦人にして若し既に洋服採用の事に全く斷決遊ばし候上は最早や何如やうに申候とも何の効なかるべく候へども未だ全く左樣にも遊ばされざる以前には凡そ此問題に付て色々と研究いたしたるもの若くはいよ／＼改良と決着なされ候上は之に付きて又種々考合はすべき事柄のある事など思付居候もの等の意見をば一應御承知なされ候方可然と存じ候なり、是迄にても日本に住居して日本服と洋服とを比較したる人々は日本女服全變の然るべきやに付ては烈しく疑ひを申し其の程節、其の經濟、其の健康の上などよりして細かに議論いたし居候とぞ御座候。

或る人々の批評には現今の日本の女服は甚はだ不程節の樣に申し候(蓋しシマリ無きを言ふなり)へども然し下着の工風を何とか致し候はゞ此の譯によりて不都合なりとは申し得られまじくと存じ候、此に較べ申せば洋裝の如きは數多の非難すべき點候と思はる彼の正裝と稱するものゝ胸を曝らし腕を露はすなど決して感心すべき裝ほひには之れ有るまじく又尋常洋服の着方に付ても誹るべき點無之とは申し得られず候、嘗て日本に參り居つたる一洋婦人の言葉に其人日本に行いて其國の女服に自分の裝ひを比らべ候迄は未だ嘗て自分の裝ほひの不程節なることを悟り申さゞりしが此時に至つて初めて之を承知し洋服に於て特更らに躰の上部を壓迫するは甚はだ人の目に立つて恥かしきように感じ候との由、日本の女服が不程節ありとは容易に申されまじき事に候。

凡そ美麗、温雅、恰好などの點より考へ候へば彼の日本女服の最良なる雛形によつたる裝ほひは真に奇麗に真に優美に候へども、若し日本の貴婦人方が是迄餘まり慣れ玉はぬ洋服を召して從前と同樣の美しさゝ裝ひ玉はんとには大方短かき年月にては出來申すまじくと心配いたし候。

又經濟の點より申し候へば洋服に裳若くはカザリの澤山なる爲め自然餘計の反物を要するとの譯は一目して既に明瞭なることに候ゆへ日本の貴婦人方が何如に其の御國產の結構立派なる反物を用ひられ候とも洋服仕立の全入費の大ひに嵩むとは明らかなることに候、其上洋服を召すと定まれば家內の諸道具飾物等を全變して之にも亦た莫大の入用を御使ひなさるべきとは固と此外の勘定に候、且又外國の裳外國の靴を用ひ遊ばすと共に外國の敷物椅子テーブル等をも御用ひなくては成ず即はち之か爲めには從來西洋に於て日本家內の飾り付は奇麗と淡固と好調の釣合とを示す雛形なりとて大層に評判あり

し其の飾り付を全く變化なされずば相成まじく候。
但し此等の事は扨て置き洋服と健康との關係に付ては殊に日本貴婦人方の注意を乞ひ申したく存じ候、米國にても利巧なる考ある婦人等は何如にして其の裝ほひを更らに難儀ならず更らに不健康ならざるように改良すべきかと多年考案を運らしたる事に候。
之が爲めに或る人々は下着として用ゆる色々の道具をば一かさねに結合し斯樣に簡便にしたる改良下着を合せ下着若くは結び下着と申して（カンビ子ーション、スート　ユニヲン、スート）使用いたし幾分か改良案を實行候へども然し彼の重き裳を何如にすべき又危難にも衣物を餘まり密にするの習ひを何如にすべきやの大問題は尙未だ其儘に殘り居り候なり、合衆國にて尤も秀でたる醫士中の或る方々は米國婦人の不健康なる事及び丈夫ならぬ事の原因は多くは身躰の下部に重き裳を掛け腰の廻りに餘まり密に着物を着くるの弊害によると申し候、左れば裳は肩より掛くるように致すが宜しく現に數多の米婦人は斯樣に致居候、然し餘り長く餘り多く餘り重くいろいろのカザリを縫付候ハゞ着手を苦しめ其の運動の折りに輕快、安易、優美を損するは固より尠からざることに候。（未完）

○空氣の話（其四）

（衞生局長）長與專齋述　佃與二川記

第二空氣を汚すものハ溝便所です是れも日本では一向頓着しない便所の臭きを香を焚て五魔化すなどハ衞生にハ不都合の至りで香の爲めに臭氣が無くなるのでハない一時鼻をだますのだから消し去ッたと云ことハ出きません是等の不潔なるものが自然に空氣を汚し何時となく我々の健康を損して「ヘーストリー」「ヒピコンデル」など云か如き不活潑にして物に倦み易く氣重くして小事も心にかゝり俗に所謂ブラブラ病といふ樣な病氣の起るもので御座りますソレ故に下水は遠く二十尺か三十尺も住居より隔て之を通し惡き臭氣の漏らない樣に陶器の管を密接し能く除ける樣に仕掛なければならぬ今迄の箱下水の如き四分板六分板位で打つけてハ下水の名ばかりで本統の用はなしません下水のことハ專門家のことになりますから深くも述べませんが下水の元は勝手のナガシモトであります流し元は御婦人方皆々の御領分でありますから能く御注意をなすつて朝夕婢僕にも命じ米の炊ぎ汁菜大根の切屑等總ての廢物ハ有機物と申して腐り易く空氣を損し人の毒になるものゆへ能く其始末をつけねバなりません元來衞生の事ハ總て目先き計り清潔にて假令臺所丈ケハ奇麗でも其廢りものゝ行く先

きく迄で見屆けて屋敷の内に滯らぬ樣に致さねば其の益はありません香を焚て便所の臭氣を五麻化すと同じ事であります。

又製造場工業場等の諸製造場は大層空氣を汚すものです是れは先程申した通り火を澤山に焚くからであります其上に製造品によりて種々の惡き瓦斯を多く生し皆空氣を汚すものとなりますされば此等の物を建るには都會より五町以外に建てなければならぬのだが東京には市内何處にも製造場等がありますから萬一御移轉なさる場合に當ては第一に其地の空氣に氣を付けて製造場の側などは御用心なさるがよろしい。

空氣を汚すものは右の外にまだあります即ち傳染病の病人です病人から出る一種の汗即ち先程申した蒸發氣です是れは格別に注意せなければならぬ一室の中に病人があれば室内の空氣は流通する樣にして時々風を通すか時々に居間を取換るか朝な〳〵掃出すか病人の衣物夜具蒲團を換るかの注意をしませんと病人の爲めにも看病人の爲めにもなりません傳染せずともすむべきに傳染すると云ふことがありますから能く注意すべきことである且つヨク〳〵緊要のことでなければ無益に傳染病のある家に見舞に往くは宜しくない先方の爲めにも此方の爲めにもなりません然しながら見舞にも行き親切に看病もしなければならぬ場合には今お話した樣に新鮮の空氣と其外十分に清潔にすることに注意し大小便の始末着物の取換方吐瀉物痰鼻汁眼汁などを拭たる布切れ紙屑の始末に注意し消毒藥を注ぎ又は燒き棄るなどのことに注意し右等の品に觸れたるときは其時々に手を洗ひ口を嗽ぎ衣ものも拂いて其病毒を我躰に附けぬように用心せねばならぬ然し臆病で熱病だから傳染りはしなからうかと噞呑に思ふのは惡るい臆病なれば神經で染り易い注意さへよければ傳染するものでありません注意と臆病との別をよく心得ねばなりません且つ疲れて居れば病毒に襲はれ易いから必ず寢ると休むとを忘れてはなりません晝夜手の離せぬ病人なれば晝夜代り番を立てゝ疲れぬ樣に又看病人自らの養ひも能くしなければならない親夫の不快には三日も四日も帶も解かず食事もせずと云ふことは如何にも然うこそあるべきことにて此上もなき美德なれとも萬一其爲めに感染すると云ふ樣なことがあつては共に倶に病氣となり一家の禍を釀す樣になりますから能く御注意なさるべきであります。

右は空氣の是非なければならぬ必要の事十分の空氣を呼吸するにも清潔なる空氣でなければならぬ事清淨なる空氣の調合

の事又空氣を汚すべき事物の事よりして右に關係したる御自分〱の心得方ハ勿論子供の育て方病人の扱ひ方臺所の始末など手近なる事を申し述べた積りであります此道理より推して御考にありましたらハ日常の事にいろ〱と御心の付くとか澤山あらふと思ひます私ハ只其一二の例とありそうな事を思付たる儘に申たのであります此他空氣の温度より衣服の事に付き御話しもありますが是ハ他日に讓り今日ハ是れて御仕舞に致します（完）

○百人一首一口話　（十一回）

鈴木弘恭講
八木鶴二錄

參議篁

わだの原やそしまかけてこぎいでぬと人にはつげよあまのつり舟。

此の歌は古今集にも載せてあります。その詞書に。おきの國にながされけるときにふねにのりて出たつとて京なる人のもとにつかハしける。と書いてあります○わだの原ハ。海をワタツミといふより海原をわたの原といふのであります。ハらのとは先回天の原の所にて委しく申して置きました通り廣き所をハらといふのであります。さてわだとは。古人の說に海神をわたつみの神といふより海をわだといふ。又た一說に海ハ舟にて渡る故に渡つ水の義なりといふ。按するにわだ蜿蟠などのわだにて大水の蜿蟠てある所なれバわたつみといふのであります。則ちたぎる水を瀧といひ。よどめる水を淀といふと同意であります○やそしまハ。イヤソにてろハ數の多き義なり。故に十の字をそとよむ。しまはシバにて地勢のせバまりてある義なり。故にしまもせまも同言であります○あまは漁夫の總名なり。故に男女の別なくあまといふなり。蜑の字。又海士ともかくハ假借字なり。さて此のあまといふ言ハ大の義にて。天の原のあまも。數多のあまも同じとなり。大なる場所にて漁取りの業する故にあまとハ云ふのであります。○一首の意ハ。今我ハ大海の八十島をかけて船出したと京の人に告げ知らせてくれよ蜑の釣舟どもよとなり。此中に京都の家族や友人もなつかしけれバ。書にて申し送りたく思へども。罪人の身にて憚かりあり。願くは今我が見て打過ぎゆく此の釣舟どもよ一言傳へてくれ。京都にハ定めて人々が案じて居るであらふといふ意を含めたり。此の歌ハ八十島かけてといふ二の句に尤も力があります。人の氣のつかぬ所あれど此の一句にて。遙々と海上數百里を航して隱岐に行くさまをあらハしたのであり

ます。まづかけてとは。かゝりてといふとにて。遠く航海するには。海が荒るゝとか風がわるいとかいふと。島かげ又ハ湊などに船がかゝりをして。日和を待て行くとなれバ。その航海の苦難なると舟路の遙かなるとをしらせたのであります○語格は。二段切れの歌にて四の句の使令言のよにて切れ。又五の句にて切れたのであります。

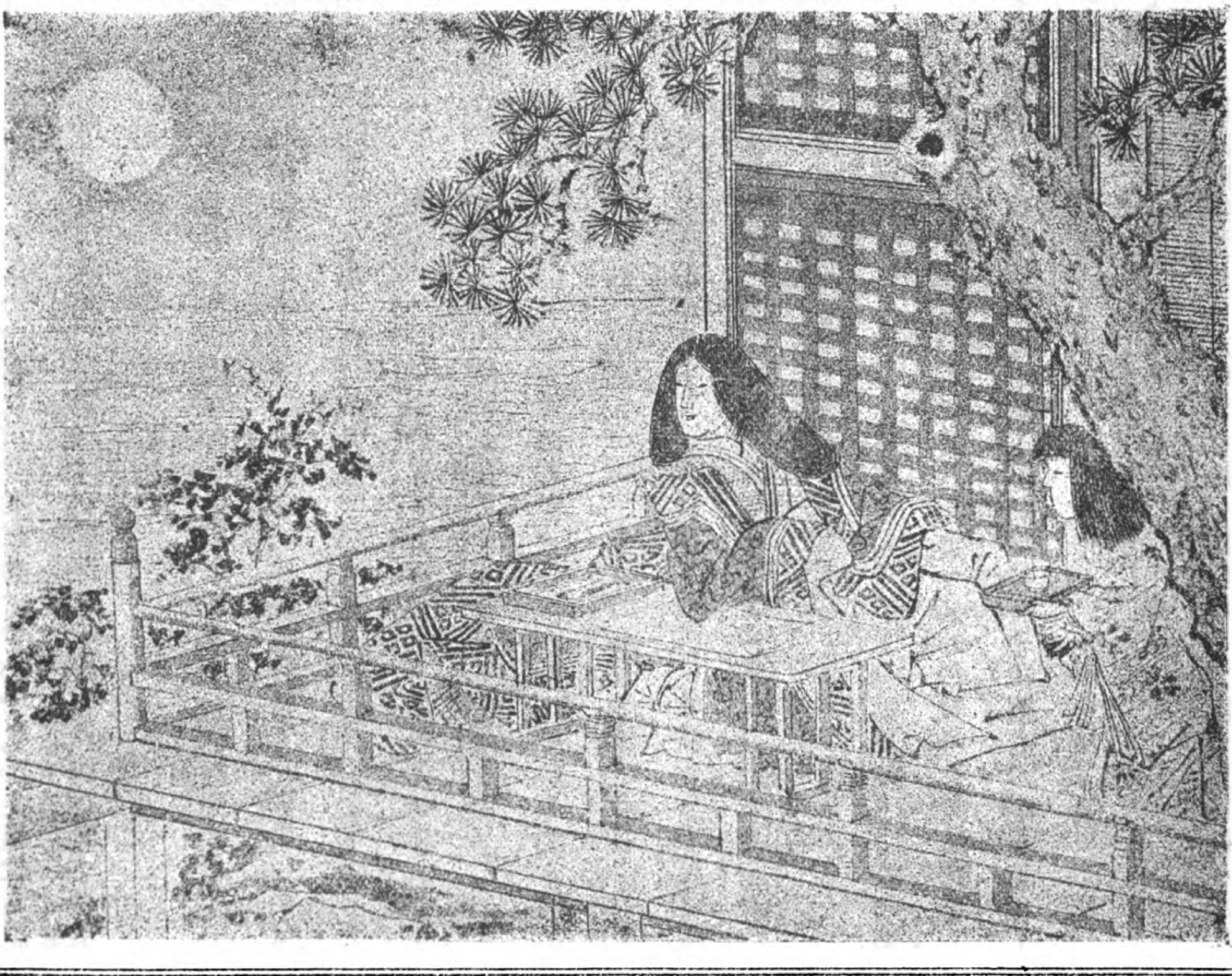
小説

○さすがに雙紙　美妙齋主人

第一篇　旅ハ途連れ、世は嫉妬。（下）

なぜ甘さうだと言に顔がちと優過ぎて居からです。眼を丁寧に吟味しても、鼻を仔細にしらべても決して最上の鑄型へ押込で出來たので無いとは思ハれません。御道具は總べて「揃ました、揃ました」……まるで草市の時の呼聲です。

が、たゞ一ッ散し方が下手です。鷄を割に牛刀を用ゐる類です。Unmproductive Labourです。目鼻の間がちとばかり廣やうに見ますが是が「甘さうに」見せる原素の糖分でしやう。其處で疵はたゞそれだけで、之で愛嬌のある



顔だと言へば承知せぬものは有りません。　が、すこし痩ぎすです。　癖は會話の時に聲を急に高くしたり、低くしたりする事で、その高くする時にかぎり大變な早言を用ゐます。
それでまた他の會話を聞く時は然も熱心で居るやうで、殘酷な話の時には吃度變に顔をしかめ、愉快な事柄の時には必らず寛に眉を延べます。　ですから、先方の身になれば、中々話甲斐のある相手で、この人の手帳の中に人の住處が澤山書いてあるので見ても交際が好いことは知れます。
それ程ですから身様などは隨分隙間がありません。　服の、それは無論洋服です。　まづ此頃巴里のそれしやの間に行はるゝ、茶縁の背廣よ、朧銀に髑髏が浮彫にあッて居る釦鈕を付け、例の白の直衣を着て居ます。　只尤も眼に付く氣取方は襟かざりの付方で、一寸幅にくゝり寄せた鼠絹をしどけなく結付け、其處を眞珠で止めて居ます。　ふゝ、奇巧……奇巧……
今一人はなぜ澁さうな顔貌だといふに、蝦蟇の風船よろしくといふ樣にでッぷり肥えて居て、その癖に目が釣上がッて居るからです。　押したら澁汁が出るか、出ないか、ペンキ屋が隨分目を注けさうです。　などゝ、罪も怨も無いのにあンまり惡く言ふのは實に可愛相な譯ですが、しかし兎に角肥えて居る……否さ……福々しい御顔だと褒めれば褒めても宜しいのです。
襟飾、さアそれが妙なのです、にやにやしい白絹で、そして手袋は鼠色です。　胸の釦鈕が張切れさうに左右へ行うと引張合ッて居る處で視れば、柳原仕入が御身躰に適當しないのでしやう。　そしてよく有類吊袴の裾が靴の後と離緣になッて絶間から内陳の白鼠の靴下が見えて居ます（白鼠とは白が鼠に自然に成ッたのです。　古物ですから貴ふムいますよ）。　衣物の地は茶セルですが、隱袋に物が澤山入て居ると見えて裾回が反返ッて向ひ風を待貌です。　併しながら帽子も革袋も皆上等の代物です。　一躰に之れを評すれば身粧のつくり方が上手で無いのです。
最初前の甘さうに見える男は椅子の上に横に坐ッて左の肩を窓に付け、滊車が走ッて行くまゝに外の氣色を見て居ましたが、それも終には退屈して屹度身躰を決直し、時計を出して一寸ながめ、
「あゝまだ中々有るなア……ちよッ」
是は獨語で言ッたのですが、獨語にしては明氣と調子高に

なッて居る鹽梅、まづ側の人へ話掛ける緒のため故さらに言ッたとよりは見えません。　けれど先方は平氣です。　それ故折角出掛かッた會話の端も酷く其尾を切られてしまつてやゝ霎刻は二人とも‥‥左樣、汽車の響の外は物の音もありません、物の聲もありません」。

その內に先方の澁さうなのが不圖停車塲の事を思出して、豫備の長い欠伸と共に「今度は‥‥神奈‥‥神奈川か」といふ句を練出しましたから、透さず這方の甘さうなのは微笑をまづ束修に出しました。

「どちらへ御旅行でムいます」。

「はい」、噛占めるやうな調子で澁さうな男も挨拶しました、實は自分も手持不沙汰で居たのですから。「函根邊へ、漫遊に」。

「はァ左樣ですか。　私も實は函根まで‥‥知己の者が先へ行ッて居ますから」。

どうも之を惡く聞けば胡摩の灰の挨拶のやうです。　が、澁さうな男は氣にも止めぬ躰です。

「やはり御漫遊ですか」。

「はい、ちとまだ時候は早うムいますが、‥‥」

「志かし、却ッて雜沓しないでよろしうムいましやう」。

「左樣です。　御旅宿は何方で?」

「葵屋です」。

「是は妙です、わたくしのも實は葵屋で」。

甘さうな男は道連を得たのに大層嬉しさうな氣色をして居ますが、流石今になッては澁さうな男も些疑惑を胸に浮かべたのでしやうか、それとも外に仔細があるのでしやうか、何やら變な顏を爲て居ます。　この內何でも名刺の交代は濟んだのです、二人は互に一枚づゝ名刺を持ッて眺めて居ます。

甘さうな男の手にあるのには栗殼鋭之介とあッて、澁さうな男の手にあるのには花房禮爾とあります。　ですから、花房といふのは甘さうなのゝ名で、そして栗殼といふのは澁さうなのゝ名です。

しばらくして栗殼鋭之介、

「葵屋で、そして御知己の方は御先へ入らッしやッたのですか」。　さも心配らしく問莧けます。

「はい、三人ほどで‥‥志かし婦人が二人でムいますから皆心細がッて居ます」。

何の氣も無く、花房は答へましたが、栗殼の唇は變な風に盛んで顔色もちと變ります。

「え丶三人連か、　私も實は知己の者があッて參るのですがそれも婦人二人の三人づれで……」

花房は得意顔、

「わたくしのは堀といふ……」

「おや、それぢや小生のと……」

「ヤッぱり同じでムいますか」

睨むやうな眼を向けて

「はい」

「これはまた奇縁ですね」。

○小説神髓

蘇格氏著　ケチルチルス　（第二十一回）

日は暮れて陛下最早寢殿に入御ましします、レスター侯は今日一日六かしき御役を仕遂げてホット息を續き其の室に退いて喜こぶパーチーは今日勳爵士の位を得たるにも拘はらず又た之が爲めにレスター侯遠慮して之を止るにも拘はらず矢張以前の如く侯の室に來つて何かと介抱し御用を聞く。侯は正服を脱して庭前に出て月が泉水小山などの上に冷しげに照り渡るを詠め亦た星が伴子ろへをしたる如く天よ輝きらめくを望み仰いで之に向つて獨語すらく、嗚呼物を言はざれども其辭ばは智者よ分かる天躰よ吾が運命の爲めには何を現はして居る乎汝ぢが其の軌道を變へずして終始一徹なる如く人も羨やむ吾が地位は永久に變ぜざる乎もしくは人間が汝ぢのきらめくに似せて造る花火の如く瞬間にして消へ行く乎と沈吟思案して室に歸り床に入つて未だ眠らずパーチー枕元に侍りて何事をか言はんとするが如しレスター之に問ふて曰くアラスコの天眼鏡に現はる丶余が運命は何如んパーネー答へて申すますく宜しき樣に候兼て殿の御身の上に懸り居つたる風雲も此頃は全く晴れ渡つたりとの事に候謹んで之を祝し參らす侯云く此後の運命は何如がわらんと思ふや實に朝廷の仕合せは當てに成らぬものなりパーチー待構へたる如くに答へて曰く若し殿の運命を朝廷の吉凶と一つに爲し玉はゞ最早左樣なる御掛念も候まじ侯驚いたる躰をして云く何に余をして陛下の夫たらしめんと申すのか、何如にも左樣に候、侯曰く之はスウィッツルランド、ゼルマニー、フランス等よりも内々に申來りたるとにて陛下に若し之を助くるの夫出で來なば歐洲の安寧は一層に著るしからんとは勸め越したり但だスペインの

みは切りに之を恐るゝようなるが固より恐るゝのみにして之を止るの權なし左れば到底汝ぢが申す如きとは爲し得べきにあらず、パーチー曰く然し殿の愛を寄せ玉ふ彼の御方は現に御病氣に候人間若し病あらば何の時に死せざるとの限りにも候まじ然らざるも凡そ地位の異なつたる方に婚姻する爲めには兼ねて既に約したる妻を其儘にして雙方に差支へなきは現に經文よも見ゆる如し殿若し其の如くに御決心あらば彼の御方はカムナプレス如き所ろに隱くし之を極密にして兩方を都合よく致さん事臣が方寸の中に在り早々何故に左樣御決心なきやと動かし立つれば、侯は大ひに怒る爲して叱りつくれども心中密かに迷ふ所ろあるが如し則ち特更らに笑つて汝ぢは今日勳爵士の位を得て心が轉倒したりと覺ゆ人間は左樣に容易くして天にも上れると思ひ居るかと云ふ、パーチー亦た半ば笑ひて、然し殿も亦た新しき格式を受取遊ばされ同樣に醉ひたる御心地のする時が追てありませうと云つゝ退り出づ。實に恐むべき姦惡物善者を迷はして之を不善の地に追ひ遣り以て己れの大慾を果さんとす謹しみても倘慎しむべきは君が臣を撰むの眼識よ在り。

エメは八角堂に在つて思ふ樣侯は今日定めし陛下の御もてなしにて忙はしからん然し今夜は必らず彼の手紙に驚ろきて密かに御出あるべしなど賴みける然るに夜に入れば數多の花火打上りて遊興聲の間だに異ならねば侯は又々さぞや獨りにて御氣をなやまし玉ふらん左れば妾が運命も又た彼の花火の如く果敢なきにはあらずやあど案じながら人待つ思ひに待ち屈してとろ〳〵と打眠り昔し彼の隱れ家にて侯と樂しく語り明せし事など夢むるうちホラの音高く響くに驚いて飛起れは日は既に東がしに出でゝ一夜空しく過たり。

佳傳

○米國女學校最初設立者メレイ、ライチン女史（其三）

ライチン女史既でに女學校設立の大目的を立てゝより何如にもして之を成就せんと日夜に熟慮したるが其比ろは女子敎育の事未だ世人の注意する所ろと成らず斯樣の事を申出せば反つて人々の笑を招くほどの有樣ゆへ諸大學の校長に說いて女子部の設立を勸むるとも毫も之に同意せざりけり然れども女史は敢て失望せず凡そ二年間は之が爲に頭腦を痛め之が爲に熱心の涙を流し終始祈りして時々書齋内を漫に歩み乍ら、

あゝ主に賴め主に賴め、主之を助けん女子敎育されざる可

らず女子敎育されざる可らず

と獨語したり又此頃ろ其母に送りたる手紙の末に、

私は敎育なき女子を見る毎に恰かも骨の中に火を閉込められたる如くに感じ候

とは認たゝめたり、然るに其熱心いよ〳〵切に成りて最早や自分乍ら之を禁じがたく斷然授業を止めてイプスウィックの家毎に女學校設立の必要を說いて廻り其の資金を募りたり此時また其母に送りたる手紙の奥に

此の事は必らず主の御爲めに相成るべきことと確信し又た必らず左樣にてあらんよう熱望いたし候而して斯く遊說する間だに之迄になき程に主の御爲め人の靈魂の爲めに働らくと思はれて甚はだ樂しく覺へ候

此時は先づ一千弗の金を募集せんと決心して遊說したるが其熱心に感じて之を賛成し寄附を承知したるもの尠らず中にも或る二人の貴女は一百弗づゝを出さんと約したるに其后に至り右金の預り人不幸にも火災にあひければ彼の二人は前約の達しがたきを憂ひ之れより共に手工して其金を取り之に寄附したりと云へり、中には斯く迄に熱心に賛成したる人のありければ凡そ二ケ月にして一千弗を得たり此時母に申送りたる手紙の中に此時ほどに疲勞したるとなしと認ため又此時ほどに彼のビーチョル氏の名言を思出したるとなしと云ひける蓋しビーチョル氏の名言とは、

凡そ涙を垂るゝの泣と骨を勞するの疲れは未だ彼の涙を垂れざるの泣骨を勞せざるの疲れに及ばず、

と申す言にて女史其頃の辛苦は實に之に相應したる數多の艱難ありしとなるべし。

一千弗の金既に出來たるに付直樣彼のヒッチコック氏許に趣むき共にアムヘストの南十英里の處ろに行て學校の敷地を撰定す斯て尙ほ多くの反對者もありしが又追々に賛成家を得殊に或る有德名望の宣敎師ろの募集の擔當に任ずるに至りしかば萬事段々に成功し益々金を集めて遂に學校建築の事に着手し今は去る五十三年前即ち一千八百三十六年十月三日マウント、ホリヨークに於て女子學校の敷石を置たり此時女史泣喜して曰く、

敷石を置ゆる其石、其の瓦、其の煉石灰、相集まつて余が靈魂を刺し通す所ろの一語を發したり

と斯て一年間其の建築工事を監督して又云く、

妾もし千の生命あらば之が爲めに犧牲とせん若し萬の金あ

らば之が爲めに直ちに貧しくなるべしと而してマウントホリヨーク女學校遂に成る時に千八百三十七年今を去る五十四年也此に於て米國初めて一の女學校を一の婦人の手に依て成就したり

新報

（此欄内自由に轉載するを許す）

○束髮の增減

國粹保存論者のお祝ひの辭ばに、近來は束髮も大に減つたと申されましたが、去月發兌の人類學會雜誌坪井正五郎君の風俗測定成績及び新案の中に上野の公園で去年の四月と今年の四月とに測量された試驗によれば束髮は九分の增し（洋服は五分の增し靴は一割一分の增）なり。又大坂に於て今年一月山崎直方氏が測定されたるに由れば女八十九人の中ち五分一は束髮にて同氏も自から之を怪まるゝほどの多數なりしと云ふ。實に束髮の如き有益無害の新風俗ハ可成多く流行させたきものなり然し斯るものは之を流行させんとせずとも蓋し自づからに行はるべきと必然なり。

○女の無學

此頃の諸新聞に字を知らざる者の數と題して云く文明を以て世に鳴る英國人民と雖ども無學の人尙甚多きが同國の男女が結婚の際必らず其公文に自ら記名すべき筈なるに其の之を記すると能はずして只だ墨印法にのみ據りたるものゝ員數をば假りに無學者の數と定むれば即ち左の如しと云ふ、因て吾人は之によつて男女無學の割合比較を作りたるに其差は第三段に示すが如し

年次	男百人ニ付	女百人ニ付	男百人ニ付女
千八百四十三年	三二、七	四九、〇	一四九、八
千八百五十三年	三〇、四	四三、九	一四四、四
千八百六十三年	二八、八	三三、一	一一四、九
千八百七十三年	一八、八	二五、四	一三四、〇
千八百八十三年	一二、六	一五、五	一二三、〇
千八百八十五年	一〇、七	一二、九	一二〇、五

之に由て女の無學は男の無學よりも多しとは云へども其の多き割合は年々に少なくなるを知る蓋し女子教育の追々に盛んとなるが故ならん。

○日本赤十字社表章設定　日本赤十字社にてハ今度批准を得て有功章社員章條例を設ふけられ有功章は社事に功勞あるものに附與し社員章は正社員たるものに附與するものにて男女共に佩用して公會に出ると を得るなりとのと。

○看護婦卒業　東京慈惠醫院看護婦教養所生徒正田もよ子、笹岡とよ子の二女は今回卒業せしに付き去月廿一日假證書を授與し本證書は來廿二年春季皇后宮行啓の節授與さると云ふ。

○東京音樂學校　同校にては今度墺國より高等音樂專門の教師を聘し次學期より其科程を改め師範部專脩部の二科を置き師範部に入る者は凡二年にして卒業し中學校師範學校高等女學校等の音樂教師とし專脩部へは特に音樂上の才能ある者に限り入學を許るし凡そ四年にて卒業し將來專門の名手を養成する筈なりと云ふ。

○頌榮女學校夏期閉校式　去月廿二日午後二時より芝白金の同校にて夏期閉校式を擧行し各女學校教師生徒父兄を招待し終りに茶菓を饗して六時全く閉塲せし由當日概畧の式を擧ぐれば英語文章、オーガン獨奏（高林孃）祝文（三宅、百孃）英語暗誦（伊智地孃）邦語文章（高橋、立石孃）英語暗誦（狛、小林孃）ピアノ獨奏（近藤孃）にて其他豫備第二年級（豫備科の發否）林、狛、伊智地三孃（日本上古の歷史に就き）高林、黑原、三宅、伊智地、林の五孃（四季の問答）三宅、南小柿、久保庭三孃（植物學解剖に就き）の邦語問答及び上野、田中、小林、藤澤四孃（支那より歸國せし人を訪ふての問答）の英語問答等あり頗る面白かりしと。

○レース敎塲卒業生　東京府レース敎塲に於て第九回定期試驗を執行し去月廿一日卒業證書を授與せしが卒業生は熊切よし、靑木しげ、鈴木きん、岸本よね、花形たま、飯塚れんの六名なりと。

○舞踏會の解散　海軍部内の人々が組織せし舞踏會は去月廿八日水交社にて開會し同日限り解散するとになりしと云ふ。

○産婆及第者　本年第一期の産婆試驗に及第したる産婆は戶田つね外二十名にて此程開業免狀を下附されたる由。

○私立壽學校　芝區三田三丁目十六番地に壽學校を設立せり校主は松本民治氏にて入學者は大抵小學尋常科以上の學力ある年齡十歲以上のものなりとのと。

○成立學舍女子部　駿河臺の同女子部にては從來の師範科を擴張し更らに女子專門科を設くる都合なりと云ふ。

○日本演藝矯風會　去月十七日同會の發會を鹿鳴舘にて開く筈の所獨逸皇帝崩御の爲め延引なりしが明八日午後一時より同舘にて執行する由なり。

○橫濱産婆組合　橫濱産婆營業者百餘名は是まての如く互に隔意ありては業務上不都合多きを以て今度橫濱産婆組合なるものを設け規約を定めて每月一回宛集會し學士を聘し産科術を研磨せんとの相談ある由。

○松本婦人矯風會　去月十六日例の如く齊産社に於て例會を開きエルマー夫人平田もと子兩氏の演說ありたりと又同會にては今後會員ハ洋銀にて矯字を刻したる徽章を附するとに決したりと。

○靜岡縣婦人會　去月十六日當地の尋常師範學校内にて開會されたるが當日參會せし夫人令孃は無慮百有餘名にして最初規則を議定し續て幹事を撰擧せしに井上

夫人、加藤令孃、齋藤令孃、松本夫人、關口婦人、佐倉夫人、小林夫人、蜂屋夫人の八名が當撰し夫れより幹事井上夫人が開會の旨趣を述べ次に靜岡女學校長カンニングハム孃が英語にて演說され井上夫人が通辨をさる次に關口隆正氏の祝辭、井上幹事の演說次に靜岡女學校主佐倉信武氏の演說次に坂主銕太郎氏の演說あり爰に至て井上幹事閉會の旨を告げ且つ紀念のため廣庭に於て一同撮影をなし午后五時頃退散せしが此日近藤有渡安倍郡長も招きに應じて臨會されしと尙同會は今後每月第二土曜日午后二時より開會し午后四時に退散するとに取極めしと。

○廣島の女學校　廣島の平塚町佐伯久三郎氏は今度女子十才以下のものを教育する爲に一私立女學校を設立する由。

○掛川女紅塲　遠州掛川宿の有志者立野光藏、松本長之、中村治作三氏の首唱にて藝娼妓輩を教育し技藝を授けんとて同女紅塲を設立せし由なるが果して此企てによりて幾多可憐の女子を正道に救ひ出すとを得ば幸ひなり。

○彙報　長榮女塾にては目下生徒募集中なり○奈良に美術學校設立の計畫あり○大津幼稚園は去二日開園せり○雲州松江婦人衛生會を去月十六日に開き浴湯の話酒の害の講談ありたり○和歌山の製絲業傳習所にては女生徒に製絲法を授け居れり總女生徒六十五名なり

外報

○日耳曼皇后　ビクトリア陛下は先きに皇帝の爲に自由机とも稱すべきものを工夫し臥するときも起たるときも共に自由に物を認め得る如き机の雛形を造りて之を二人に命じ製作せしめられたるに立派に出來たりと申す。

○ニウイングランド女子投票權會　の事は前號にも記したるが其の第二十年回に於て定めたる會頭は再びルシーストン夫人外に副會頭四十八人書記にヘンレーブラックエル女史等なり。

○日本皇后陛下　五月十七日の英國ザレデー雜誌に日本皇后陛下は追て大平洋を橫ぎりサンフランシスコに着船鐵道にてワシントンに渡らせられ大統領及び同夫人に面會遊ばされ其上ニウヨーク、ジャックソンビル等を啓行ましまさん御伴ぞろひは云々其人名は何々など認めたり而して吾人日本の民は毫も之を知らず

小供談

○盲人の物語　（其三）

坊三は答へて若し右の目にて見ば直ちに盲人となるべしさすればこれまで私かあなたに盡せし深切も無汰となり却りて私を敵とも恨み玉ふに至らんゆへ此義は御免下されと申されました私はモ見たさがたまらなくて若し此の一義をなし下さらずは和尙樣は矢張り此世の慾の有りと見へ私になされぬ事があるので御座りましよ若し左樣の事が有つたれば私の身を恨むのみ決して和尙樣を恨みませぬ此義をお聞き下さらぬこそ却ッて恨は多うござりますと無理に願ひました實は私は慾に眼が暗みまして物の道理も見へ分かす人の深切をも疑ひましたから斯く願ひましたのでありました和尙樣は致し方なく其香箱を私の右の眼に當てますと私は直ちに斯る盲人となりまして始めて氣が付きドーカ治る藥は御座らぬかと尋ねましたに和尙樣はお前の心が暗ひからお前の目が盲れたのだこれを直すには神樣に願ふより外に術はないと申されましたから私は一生懸命に祈りましたが俄信心は聞かれぬ事と見へ彼の坊三も斯る惠を知らず恩を思はぬ人に恩を旋し富を與へんより外に與ふる人多しとて私が持ておりました八十四の駱駄を引去り只私は一人其所に殘されました事故私の祈の聲を聞くものは松の枝吹く風計り悽しき今の身の上となりました是れは皆私自身の買ふた身の終てと思ひますお小供衆方達は何卒私のやうにならぬ樣切めては其道しるべを致しますを私の樂と思ひますから斯く長々しく身の上の懺悔話しを致しました。

女學雜誌社出版書目

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正增補 **文法口授** 全一冊●一名和文獨案内　定價十八錢 郵稅四錢

此書は文章家ある鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尙亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾ょ付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校敎科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに成立學舍女子部跡見女學校頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の敎科書となりたり

船越鼎太郎著

產婦小兒 **攝生法**　定價十八錢 郵稅四錢

巖本善治編

木村鐙子小傳　定價十錢 郵稅六錢

田口卯吉君結髪沿革附錄○和崎義路君校○巖本善治君跋

渡邊鼎君著

東髪案内　美製小本八十頁細圖入 定價十五錢郵稅四錢也

當今東髪流行の折柄其結び方不案内の婦人少からず此書は日本婦人ょ適する東髪二十餘種の結び方を丁寧に敎へ一々細圖を附して親切に案内すれば何如なる僻遠の地に在りて東髪の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文東髪會の規則其外をも添へたれば結髪改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

中島湘烟女史著

●**善惡の岐**　定價金五拾錢 繪入美本

●目次○野蠻とも言へ未開とも言へ實に太平の里なるべし○高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士○紅潮端なく上る佳人の面○一樹の名花春動く初○豁間の清流も繁都の泥水なりしを知らずや○雙腕の勇餘す所あく滿腹の智還す所なし○撫松庵のみ能く撫松庵の胸中を知れり○痴夢情烟春月暗○誰知一滴愛情水散湧奔波激涙來○世上の功名灰塵に異ならず○錢囊瘦腹裡飢以て天下の經濟を論ず○貧生の慷慨特に足らす○當路の君子にして袖の下を嫌ふものはあらじ○雙蝶花に戲れて春情あり○歡樂のある處悲愁の伏する處○姉妹の談濃かにして春窓の燭微かなり○怨もなく怒もなきは交りと愛と共に新なるによる○撫松庵が胸邊寒く吹き送る巖間の風ぞ腥し○世難海より深かく人情紙よりも薄すし○會離縁あり應報爭ふべからず○優なる哉水聲人事の齟齬を嘲る○情人の艶話唯閑雲の聞くあるのみ○上帝親なく唯善人に與みす○客窓涙あり孝子の情○茲に因ありて茲ゝ果あり○人間の歡樂一場の夢○墜葉翻つて力なく懶禽啼て恨あり○地下の白骨土いまだ冷かならず病窓の美人恨愈多し○開花原是落花風○人の死する其言ふとや善し

●賣捌○本社、銀座博聞社、原金港堂

統計局次長世良太一君序○統計協會議員吳文聰君序

通今居士橫山雅男君著

●**婚姻論**　定價三十五錢 郵稅十四錢

此の書は通今居士橫山雅男君の著にして全編を二十八章に頒ち總論。婚姻の定義。婚姻は人類の天性。婚姻の効力等より說き起し早婚。晚婚。私婚。血族婚。離婚。一夫一婦の正婚など悉く歐米の統計上より論及し議論正確文章平滑一讀我國舊來蠻風の結婚を改良すべきの必要を感するの書なり

發兌 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上州伊香保溫泉宿村松秀茂

これの出湯のひめ方の病ひに効ある事は伊香保風の世々に吹傳へ物聞山の聞きなれたれば更にいはねど往復ふ人の年毎に多くなれるは開けゆく御代の光りの御惠にこそよるなるべけれ然れは年月に建増たる家搆廣きは許多あれと山水の眺望のいと愛らかに見晴たると內外の人々の起臥にも叶ふやうに營み建たるは憚り多き事にあゝれど我家居に限れる殊に萬の調度ども清らを盡し都ての御賄は心の限り低廉し蘇比の榛原ねもごろにつかふまつれば此地にゆあみして御身を養ひ賜ふ君は榛名の山より高く伊香保の沼より深きみめぐみもて今年もまた根呂の小松の待つ程たがへず宿らせ賜はむ事を冀ふ

○東京經濟雜誌

第四百二十五號
六月三十日發兌

目錄◎（官令）二件◎（社說）金融ノ大勢○東京府臨時會○取所條例◎（論說）米國動產稅（續）○人口調査ヲ爲スベキ時機熟セリ◎（寄書）監獄ノ目的ヲ論シテ疑フ處ヲ述ブ◎（雜錄）輸入稅徵收法ノ改正○肥料粿濫製取締ノ事○臘虎獵船チモー號遭難顚末○露國石油ノ輸入○大坂築港○明治廿一年四月中外國貿易ノ景況○生糸質易開始協議會○合衆國上院國際版權條例案ヲ議決ス○石川縣下ノ攻我會○支那政府ノ外債○米國レパブリカン黨大統領ノ候補者○兀立先生ノ談○故東京府知事松田道之君ノ墓表成レリ○府縣會議員選擧ノ冷熱○朝鮮京城ノ動搖○東京株式取引所ノ揭示○小松彰君ノ傳◎（金融及商業ノ景況）○東京金融ノ景況○東京公債及株券ノ商況○東京横濱ノ商況○東京限月米及ヒ正米ノ商況○東京諸商品ノ商況

定價 一冊金七錢○十冊前金六十五錢○半年分前金一圓五十六錢○府外ハ一冊ニ付郵稅一錢宛增

東京々橋區彌左衛門町七番地
經濟雜誌社

出張教授と望む高等の教育

壯年にして身元確實品行方正生來高等の教育を受け最も獨逸學に通曉する者あり今般當人の餘暇を以て毎日官員華族若くは其他の令息令孃等の御內に獨逸語出張敎授仕度候間御望の御方は何卒女學雜誌社まで御通知被下度候尤も時間は午後の內一時間乃至二時間にて報給は八圓乃至十二圓とす又二人以上御組合にて一同に敎授仕りても宜敷候。

●結婚媒妁所

東京日本橋區檜物町一番地○全國何人に限らず嫁聟媒妁依賴に應ず

交詢案內

●雇ひたき方　（甲）

一	機織	府下にて十二三より以上の女を數百人機織に雇ひたし（神田紺屋町十一番地稲原方）
二	學婢	十七歲以上にして小學校卒業同等の學力あるものにして三ヶ年入塾して差支なきもの試驗上雇ひたき學校あり
三	家婢	十五六歲のもの小間遣に雇ひたきものあり尤も毎日外國女敎師に附け一時間宛英語を學ばすとのこと
五	家婢	年齡二十歲位身元慥にして正直に臺所を能く働もの一人一圓五十錢位の月給にて雇ひたきものあり
六	乳母	乳母とは言へ乳を要するにあらず基督敎主義にて小兒を養育し得るもの月給は食料の外二圓位にて雇ひたし主人は醫學生家族八人內下婢二人家事に頓着するに及ばずと
七	保姆	地方高等小學校にかて幼稚科の保姆を雇ひたきものあり月給ハ十三四圓位まで基督信徒の方を要すとなり
八	家婢	卅年前後の篤實なるものにて四五才の女子二人の世話をなし少々裁縫の事を心得洗濯等を致す寡婦を望む最も月給は三圓位を與ふ

摘要

（一）此案內は社員の餘暇になすものなれば勿論手數料を要せざれども双方照會の郵便賃として郵券十錢御送りの事
（二）前申す如く餘暇の業なれば決して催促がましき申込を爲されまじき事
（三）詳細の規則は本誌第百一號にあり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

生徒募集廣告

來る九月より始まる學年生徒各級幷せて四拾名入塾を許し候に付き志願の諸娘孃は入學試驗期日（七月十、十一日）に先ち校長宛願書御差出しあるべし但し本校一覽は郵稅四錢封入監事宛御申込あらば直に發送すべし

横濱山手百七拾八番館

明治廿一年六月　フェリス英和女學校

新築落成に付女生徒募集

從來大坂土佐堀にありし大坂一致女學校現地に於て新築落成に付き寄宿生八十名通學生三十名入學を諾す有志の貴孃は八月十五日迄に申込あれ入學者年齡は十二歲以上にして尋常科卒業以上の學力あるもの○英語は米國女敎師初級より敎授す

○郵劵二錢を送らば規則を呈す

大坂府下西成郡清堀村

大坂一致女學校

矢島錦藏譯述

賢女德新說

洋裝全一册 定價金九十錢

賣捌所　東京々橋區竹川町十三番地　共益商社

●基督教新聞

第二百五十八號　七月四日發兌

本號社說には將來に於る我國敎會の特性○論說には日本信徒に告ぐ○雜錄には神より外に賴むものなし○外報には在紐育植村正久氏のメソヂスト大會に於ての**婦人を代議人となす**

可否論

の爭難摸樣の通信あり○其他敎報、雜報、彙報等あり○定價一册三錢郵稅一錢○每水曜發行

東京々橋區日吉町廿番地　警醒社

●東京輿論新誌

第三百五十號　七月四日發兌

（社說）**國會議員撰擧の區域如何**

第二　青木匡君稿　**開國始末辨妄を讀む**

●（演說）**郵便法を論す**　肥塚龍君演說●（論說）監獄建築意見。小野田元熙君口述、移住的思想の大波瀾。三島一雄君稿●（寄書）貧富懸隔の匡正法を論し殖民政畧に及ぶ「承前」竹森貞馬君稿●（翻譯）米國憲法論「第十三回」大統領の撰擧、●（雜記）米國合衆黨の大統領候補●朝鮮の小變動●郡區長試驗期日及び需要人員●嚶鳴社員諸氏政治演說の大意●大坂築港の企●各地政社の設立●七日間の緊要電報●九州鐵道會社●ウオルスレー將軍の演說、其他數件（一册定價五錢）

東京々橋區尾張町新地七番地　嚶鳴社

クレームシモン廣告

クレームシモンハ巴理ノ最モ名醫ノ勸メル所ニシテ美麗ナル婦人ハ皆是ヲ用ユ、此藥ハ他ニ其類ナク一夜中ニ面胞(ニキビ)、胼(ヒビ)、寒瘡(シモヤケ)其他皮膚一切ノ出來物ヲ治ス又皮膚ヲ白クシ强クシテ且香氣ヲ添ユ

プードルシモン（粉）サポンアラクレームハ共ニ同シ香氣アリテクレームシモンノ著シキ功能ヲ全クス

一手賣捌　横濱五拾一番　ア、キユルチー

遞信省認可

守田家製御匂ひ袋各種

御懐中持 君ケ袖 小包 價十五錢 大包 價三十錢

御簞笥用 桐壺 一掛 價一圓

八重櫻 一掛 價五十錢

柴舟 一掛 價二十錢

右は孰れも拙店自製の品にして近年行はるゝ專ら外飾のみを勤めたる粗製の品とは隔段の相違に御座候宜く御用ひ比べ可被下候

○但し香氣劑に付請賣差出不申候

一御便利の爲めに匂袋並に麝香の切手出來致居候間是又御用向之程奉願上候

寶丹本舖 東京池之端仲町二十七番地 守田治兵衛

發兌					
七月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
八月。	四日	十一日	十八日	廿五日	
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	

定價

一册。五錢 郵稅。一錢（但府內無郵稅）

十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）

半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢

一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行（廿七字詰）一回 前金拾錢

同 三回以上 一割引

同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田是貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年七月五日印刷

明治二十一年七月七日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.